

THE 31TH JAPAN BATTED NATIONAL TOURNAMENT
DATE: AUGUST 6th, 2022 10:00~16:00
LOCATION: KANAGAWA PREFECTURAL BUDOKAN

中倉旗争奪戦
殊勲賞文部科学大臣

第三十一回 日本拔刀道連盟 全国大会

日時 令和四年八月六日(土曜) 午前十時開会式
会場 神奈川県立武道館

住所 神奈川県横浜市港北区岸根町七二五

☎〇四五―四九一―四三二一

一般財団法人

主催 日本拔刀道連盟

後援 国際拔刀道連盟

全日本拔刀道連盟

全日本戸山流居合道連盟

日本総合武道尚武館

綱 領

本連盟は、人としての道と日本刀の尊厳を軸として、日本古来の刀法実技の研修を通じ心身を鍛錬し、さらに会員相互の融和協調と信頼関係の樹立に努め、もってその人格の形成に資すると共に国の内外において真の抜刀道の普及を図り、世界平和と親善に寄与することを目的とする。



一般財団法人

日本抜刀道連盟

抜刀道

抜刀道賛歌

作詞
範士九段 中世古 勝司

己おのれの道まっすを真直ぐあかしに生きた証あかしが劍の道

慢心まんしんおさえ 心いましを戒いましめ じつと堪こらえて

空ひとふに向かつて 一振りひとふすれば 心ひとふを清め己ひとふを正す

吟 大志たいしだ抱あゆき 歩あゆみ続つづけし 道あゆなれど

行く手ゆは遠てき抜刀ばつとうの道

(繰り返し)

人世ひとよの道ひとは一つひとにせんあらず 千せんも万よろずも己おのが道

できることかさから 一つかさ重ねいくとしつきて 幾年いくとしつき月

お天道てんとうさま様のあたる道 常つらぬに誠つらぬを貫つらぬき通つらぬす

ご挨拶



一般財団法人日本抜刀道連盟 名誉会長
第三十一回日本抜刀道連盟全国大会

前参議院議員
自民党茨城県連最高顧問
岡田 広

第三十一回日本抜刀道連盟全国大会の開催を心よりお祝いを申し上げます。

日本抜刀道連盟が刀術の真理の探究とその伝承と普及・発展に寄与して参りましたことは菅野茂会長をはじめ関係各位のご尽力の賜物と心より敬意を表する次第であります。

抜刀道は、日本刀の真剣を用いて相手を斬るための武術ですが、日本刀は武器としての役割を既に終え、抜刀道においても同様に本来の目的は終えています。抜刀術から抜刀道への「術」から「道」に文字が変わることで、従来の刀法に則った技術と「道」としての高い精神性が求められるものとなりました。

抜刀道で言う日本刀は、武器として作られた時代から現在までその製造過程は変わっていませんが、求められるのは優雅さと尊厳と威厳であり、そこから高い権威性と芸術性が生まれています。抜刀道においても伝統の刀法を極める中で求められるのは、日本刀同様に優雅さであり尊厳であり威厳ではないでしょうか。

本大会出場の剣士諸君においては、日頃の鍛練の成果を思う存分発揮されとともに交友を深め、本大会を明日からの鍛練の励みとして抜刀道の神髄を極めていただきたいと思います。

本大会の開催にあたり、抜刀道関係各団体のご理解とご協力に深謝申し上げます。抜刀道の今後益々のご発展とご参集の皆様のご健勝を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



ご挨拶

一般財団法人日本抜刀道連盟 相談役
第三十一回日本抜刀道連盟全国大会
大会顧問 中世古 勝司

第三十一回日本抜刀道連盟全国大会おめでとうございます。

諸先生を始め会員の皆様には連盟に対するご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

全国大会も三十一回を迎えこのように盛大な大会を開催されます事を心よりうれしく思います。

これからは組織を益々充実させて会員を増員し、抜刀道日本一を目指して行きたいと思っております。

これには会員の皆様の協力なくしては、実現が不可能でございます。この事をよく認識して頑張ってくださいと願っております。

新型コロナウイルスは二〇一九年十二月初旬に中国の武漢市で第一例目の感染者が報告されてからわずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった。そのさなかにロシアのウクライナ侵攻が始まり未だ進行中であります。世界中の人々の心が乱れ動揺している今こそ我々日本人は武道を通して範を示すべきではないかと思っております。

抜刀道の祖であり我々の恩師でもある故中村泰三郎先生は「活人剣抜刀道」著で「活人剣」を提唱されておられます。「言うは易く、行は難し」であります。どうか剣の修行と同時に心を磨く事も忘れないで頂きたい、自分の事に気づかず他人をいくら直そうとしても、なかなか直してくれません。先ず自分を正すべきなのです。

諺（ことわざ）に「人は鏡、万象は我が師」とあります。自分の顔についた「汚れ」を鏡に写して消そうと鏡をこすっても消えません。

自分の顔の「汚れ」を消し去れば鏡の「汚れ」も消えます。単純な例えのようですが、これが真実なのです。私も「人生は一生勉強」と心に誓って、精進して行きたいと思っております。

若い剣士諸君頑張ってください！！

ご挨拶



一般財団法人日本抜刀道連盟 会長
第三十一回日本抜刀道全国大会

大会会長 菅野 茂

第三十一回日本抜刀道全国大会が盛大に開催出来ますことに、ご列席を賜りましたご来賓の皆様、日頃お世話になります関係各位に、心より厚く御礼を申し上げます。

全国大会は例年十月に実施しておりましたが、会場の神奈川県立武道館は、今年十月より長期改修工事となりますので本日の開催となりました。

参加される選手の皆様にはなかなか収束が見えないコロナ禍により、充実した稽古が出来なく本来の実力を発揮しづらいと思いますが、成果を十分に発揮されとともに、抜刀道を愛する全国の仲間と友好の絆と親睦を深めていただき、本大会が思い出に残る大会となりますことを願っています。

当連盟の制定刀法は本年二月一日に商標登録となりました。これにより制定刀法は唯一無二の刀法となり、当連盟だけが独占し守り継承する技であります。

今、日本の各種武道は海外に広まり発展しています。そのような中でも抜刀道は日本刀を用いて仮標を斬り、刀法の要領を学ぶ世界に類のない武道として注目されています。当連盟では日本刀への尊厳と、武士の心身を鍛錬する「正統抜刀道」として、世界に向けて拡大する計画中です。

結びに、本大会の開催にあたり、ご尽力をいただきました、関係の皆様には深く敬意を表し、今後も変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、切にお願いをして挨拶とさせていただきます。

大会次第

総 合 司 会

日本拔刀道連盟 事務局次長

事務局員

佐藤 亜里香
増田 幸弘

開会式

一、開 会 宣 言

大会 実行 委 員 長

日本拔刀道連盟 事務局員

藤 田 僚

一、国旗に拝礼・君が代斉唱

一、大会名誉会長挨拶

日本拔刀道連盟 名誉会長

一、大会顧問挨拶

日本拔刀道連盟 相談役

一、大会会長挨拶

日本拔刀道連盟 会 長

一、来 賓 祝 辞

台北駐日経済文化代表処 駐日代表

岡 田 広
中世古 勝
菅 野 茂
謝 長 廷

一、功労者表彰ならびに感謝状

一、審 判 長 注 意

大会 審 判 長

一、優 勝 旗 返 還

第三十回 優勝チーム東京英信会支部

一、選 手 宣 誓

日本拔刀道連盟 英明会支部

一、露 払

日本拔刀道連盟 範士八段

一、日本拔刀道連盟組太刀

日本拔刀道連盟 五段 打太刀

一、試 合（別紙による）

日本拔刀道連盟 六段 仕太刀

境 泰 雅
成 田 英 右
山 口 達 弘
境 泰 雅
城 谷 光 俊
猪 膝 武 士

閉会式

一、成 績 発 表

日本拔刀道連盟 教務部次長

一、表 彰

大 会 会 長

一、審 判 長 講 評

大 会 審 判 長

一、閉 会 の 言 葉

大 会 副 会 長

柴 田 輝 久
菅 野 茂
境 泰 雅
岡 本 光 正

大会役員

大会名誉会長
大会顧問

前参議院議員 名誉会長

岡田 広

〃

日本拔刀道連盟 顧問

中世古 勝司

〃

日本拔刀道連盟 参与

中島 正夫

〃

日本拔刀道連盟 監事

中北 祐嗣

来賓

台北駐日經濟文化代表処 駐日代表

謝長 廷

〃

国際拔刀道連盟 会長

中村 朋子

〃

全日本流居合道連盟 理事長

籙谷 嘉辰

〃

全日本拔刀道連盟 会長

中村 悦之

〃

日本綜合武道尚武館 最高師範

下田 柔心

大会会長

日本拔刀道連盟 会長

菅野 茂

副会長

日本拔刀道連盟 副会長

岡本 光正

副会長

日本拔刀道連盟 評議員

橘 蘭一

副会長

日本拔刀道連盟 評議員

堀内 城夫

副会長	日本拔刀道連盟 理事	関原勝
大会実行委員長	日本拔刀道連盟 事務局次長	藤田僚
副委員長	日本拔刀道連盟 広報部長	小林克己
大会審判長	日本拔刀道連盟 教務部長	境泰雅
大会副審判長	日本拔刀道連盟 教務部次長	柴田輝久
大会進行委員長	日本拔刀道連盟 事務局次長	藤原弘通
大会準備総責任者	日本拔刀道連盟 教務部次長	猪膝武士
刀剣検査委員	日本拔刀道連盟 讚岐拔刀道	平岡茂範
”	日本拔刀道連盟 讚岐拔刀道	藤本佳嗣
”	日本拔刀道連盟 英信館支部	山口博
”	日本拔刀道連盟 教務部員	長野喬

大会準備委員

安全管理員・会場設営員

記録 事務局員 山口 達弘

英明会支部 増田 幸弘

” 教務部員 山下 秀造

埼玉支部 岩崎 進

” 会 計 岩澤 和也

八千代支部 岩澤 和也

受付 会 計 甲野ルリ子

士成会支部 山下 秀造

” 英明会支部 榎 正乃

士成会支部 庄司 一憲

” 埼玉支部 岩崎 進

東京英信会支部 成田 英右

接待 事務局次長 佐藤亜里香

尚武館支部 伊藤 勉

報道 広報部員 庄司 一憲

武相会支部 城谷 光俊

” 広報部員 増田 幸弘

埼玉武蔵会支部 三上 鉄男

救護 教務部付医師 杉田 秀幸

英明会支部 稲垣 達哉

公認審判員

(敬称略・順不同)

審判長 境 泰 雅

第一会場

四段・五段の部 A 審判主任

橋 藪 一

無段・初段の部・団体戦 A 審判員

堀 内 城 夫 ・ 柴 田 輝 久

二段・三段の部 A

新 藤 智 之
成 田 英 右 ・ 藤 本 佳 嗣

第二会場

四段・五段の部 B 審判主任

平 岡 茂 範
関 原 勝 ・ 山 口 博

六・七段実技の部・団体戦 B 審判員

小 林 克 己
藤 原 弘 通 ・ 猪 膝 武 士

二段・三段の部 B

境 泰 雅 ・ 橋 藪 一

第二会場

制定刀法・形・実技・団体戦の決勝

岡 本 光 正

各部の決勝戦は三名又は五名の審判員で行う

平 岡 茂 範 ・ 堀 内 城 夫

関 原 勝

競技審判要領

日本抜刀道連盟全国大会は、日本抜刀道連盟が、武道の源流を為すこの道を、正統抜刀道として普及発展を図り、日本の文化武道遺産として後世に伝承することを希求し開催される大会である。

この間、私達全国の会員一人一人は、相互信頼を基盤として今日まで幾多の困難を乗り越え歩んできたが、この道の足跡を本連盟の歴史に印すと共に、会員の一年間の修練の成果を互いに発表し啓発する素晴らしい意義ある大会であります。

大会競技（試合）種目は、日本抜刀道連盟「制定刀法」の《形と実技》により行われますが「制定刀法」は、本連盟が流派を問わない、各流派の大同団結を願う組織構成されており、先人達の尊い意志を尊重継承し、日本武道の精神が脈々と流れる正統抜刀道として、剣の理合・刀法の研究・斯道の将来の展望を見据え、本連盟「制定刀法委員会」の英知・実技精査・審議を結集し、日本抜刀道連盟独自の刀法として制定したものであります。

私達が修練している抜刀道は、真剣を用いることから、抜刀道存続の生命線とも言つべき次の三点を、本連盟は最重要指導理念と位置づけ、きめ細かく指導徹底にあたっている。

- 一、稽古・競技（試合）中に於ける、絶対安全の確保。
- 二、斬ることのみに走らず「心・技」の修得に心掛け、剣の理合に合った修練を積み心身を鍛錬する。
- 三、この道に終わりなく、上達の妨げとなる、単に仮標が斬れて上達したと錯覚した「慢心と我執」を戒める。

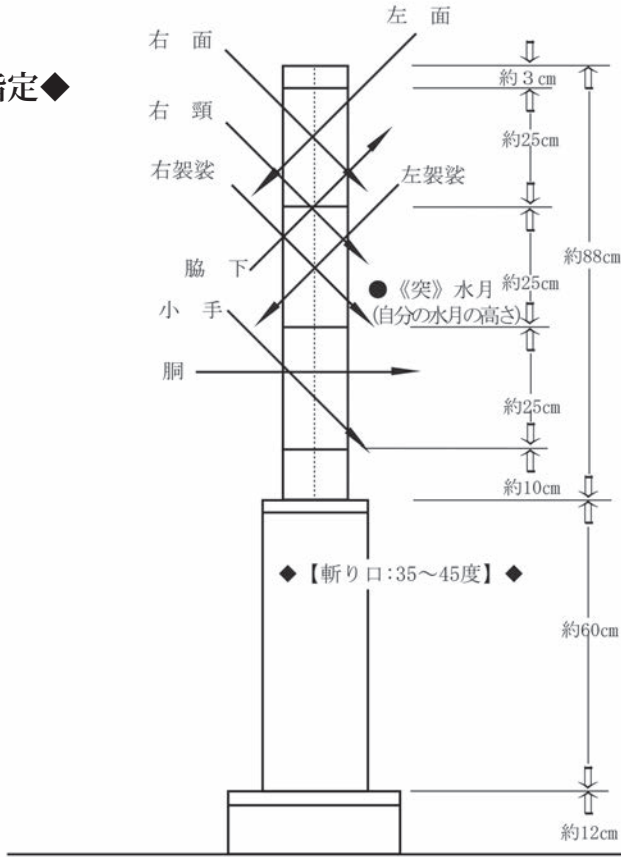
…大会競技審判着眼点…

- 一、外見（着装・姿勢・礼法・品位・目付）
- 一、技前（抜刀・構え・間と間合い・足の運用・払い技・刷り上げ技・体の躲し）
- 一、修練度の深さ（制定刀法教本に忠実な所作・技の冴え・残心・気位）
- 一、重要項目（斬突の姿勢・斬った位置の良否・斬り口・角度・切断面の良否・斬った後の切っ先の高さ）

以上、このような観点から本大会の競技（試合）審判要領をご理解いただき、併せて全国各地の会員諸兄が日常の稽古の中で「審判着眼点」を念頭に、これらを意識した自己修練が出来るよう、ここに広く公開するものであります。

日本抜刀道連盟 全国大会

制定刀法(個人戦) 実技 試合課題

<p>実 技</p>	<p>連盟制定 使用仮標図示</p>																					
<p>◆制定刀法から [段別に] 当日指定◆</p>	 <p>◆斬ったときの切っ先の高さ◆</p> <table border="0"> <tr> <td>面を斬る</td> <td>⇒ 面</td> <td>◆胸の高さ</td> </tr> <tr> <td>頸部に斬り込む</td> <td>⇒ 頸(くび)</td> <td>◆腹の高さ</td> </tr> <tr> <td>脇下・腹部から斬り上げる</td> <td>⇒ 脇下</td> <td>◆頭上(切っ先が天井を向かない事)</td> </tr> <tr> <td>袈裟に斬る(肩から斬り下げる)</td> <td>⇒ 脇下</td> <td>◆膝(ひざ)の高さ</td> </tr> <tr> <td>胴を斬り抜く</td> <td>⇒ 脇</td> <td>◆臍(へそ)の高さ(切っ先を体の横まで振らぬ事)</td> </tr> <tr> <td>小手を斬り落とす</td> <td>⇒ 小手</td> <td>◆太ももの高さ</td> </tr> <tr> <td>水月を突く</td> <td>⇒ 突</td> <td>◆自己的水月の高さ</td> </tr> </table>	面を斬る	⇒ 面	◆胸の高さ	頸部に斬り込む	⇒ 頸(くび)	◆腹の高さ	脇下・腹部から斬り上げる	⇒ 脇下	◆頭上(切っ先が天井を向かない事)	袈裟に斬る(肩から斬り下げる)	⇒ 脇下	◆膝(ひざ)の高さ	胴を斬り抜く	⇒ 脇	◆臍(へそ)の高さ(切っ先を体の横まで振らぬ事)	小手を斬り落とす	⇒ 小手	◆太ももの高さ	水月を突く	⇒ 突	◆自己的水月の高さ
面を斬る	⇒ 面	◆胸の高さ																				
頸部に斬り込む	⇒ 頸(くび)	◆腹の高さ																				
脇下・腹部から斬り上げる	⇒ 脇下	◆頭上(切っ先が天井を向かない事)																				
袈裟に斬る(肩から斬り下げる)	⇒ 脇下	◆膝(ひざ)の高さ																				
胴を斬り抜く	⇒ 脇	◆臍(へそ)の高さ(切っ先を体の横まで振らぬ事)																				
小手を斬り落とす	⇒ 小手	◆太ももの高さ																				
水月を突く	⇒ 突	◆自己的水月の高さ																				
<p>実 技</p>	<p>① 制定刀法から当日指定する。 ② 女子または75才以上の選手の仮標は半巻でもよい。</p>																					

制定刀法 初段以下の部(形)

		出場選手名	所属団体名
7	5	1 榎 正乃	英明会支部
		2 角井 翔太	士成会支部
		3 原 良輔	英明会支部
		4 柏俣 和夫	埼玉支部
	6	5 小倉 健雄	英明会支部
		6 中村 智	士成会支部
		7 稲垣 達哉	英明会支部
		8 三上 鉄男	埼玉武蔵会支部

制定刀法 初段以下の部(実技)

		出場選手名		所属団体名
7	5	1	小倉 健雄	英明会支部
		2	柏俣 和夫	埼玉支部
		2	稲垣 達哉	英明会支部
		4	中村 智	士成会支部
	6	3	榎 正乃	英明会支部
		6	三上 鉄男	埼玉武蔵会支部
		4	原 良輔	英明会支部
		8	角井 翔太	士成会支部

制定刀法 二段・三段の部(形)

		出場選手名		所属団体名
	1	1 藤川 正智		武徳塾支部
	6	2 長谷川勇一郎		武相会支部
	10	3 杉田 秀幸		埼玉武蔵会支部士
	7	4 石川 純一		成会支部
	2	5 加藤 康友		武徳塾支部
	12	6 馬淵 克美		岐阜支部
	8	7 小倉 雅志		士成会支部
	3	8 水村 光治		埼玉支部
	11	9 城和 広貴		さいたま尚武館支部
	4	10 宮元 鉄郎		八千代支部
	9	11 庄司 一憲		士成会支部
	5	12 藤田 良治		武徳塾支
	13	13 赤星 進一		部聖心塾支部

制定刀法 二段・三段の部(実技)

		出場選手名	所属団体名
12	10	1 赤星 進一	聖心塾支部
		2 長谷川勇一郎	武相会支部
		3 庄司 一憲	士成会支部
	7	4 城和 広貴	さいたま尚武館支部
		5 加藤 康友	武徳塾支部
		6 水村 光治	埼玉支部
	8	7 馬淵 克美	岐阜支部
		8 藤田 良治	武徳塾支部
		9 石川 純一	士成会支部
		10 宮元 鉄郎	八千代支部
	9	11 杉田 秀幸	埼玉武蔵会支部士
		12 小倉 雅志	成会支部
		13 藤川 正智	武徳塾支部

制定刀法 四段・五段の部(形)

			出場選手名	所属団体名
Aグループ	5	1	1 増田 幸弘	英明会支部
		2	2 成田 英右	東京英信会支部
		2	3 長野 宏治	士成会支部
		4	4 岩澤 和也	八千代支部
	6	3	5 伊藤 勉	さいたま尚武館支部
		6	6 長野 喬	武徳塾支部
		4	7 藤田 僚	東京英信会支部
		8	8 市角 壮玄	英明会支部
Bグループ	5	1	9 佐藤 亜里香	英明会支部
		10	10 藤原 弘通	八千代支部
		2	11 山下 秀造	士成会支部
		12	12 安藤 一昭	武徳塾支部
	6	3	13 大塚 晋二	東京英信会支部
		14	14 岩崎 進	埼玉支部
		4	15 福本 俊治	武徳塾支部
		16	16 猪膝 武士	武相会支部

制定刀法 四段・五段の部(実技)

		出場選手名	所属団体名
Aグループ	5	1 成田 英右	東京英信会支部
		2 猪膝 武士	武相会支部
		3 市角 壮玄	英明会支部
		4 山下 秀造	士成会支部
	6	5 長野 喬	武徳塾支部
		6 大塚 晋二	東京英信会支部
		7 岩澤 和也	八千代支部
		8 増田 幸弘	英明会支部
Bグループ	5	9 藤原 弘通	八千代支部
		10 伊藤 勉	さいたま尚武館支部
		11 福本 俊治	武徳塾支部
		12 藤田 僚	東京英信会支部
	6	13 岩崎 進	埼玉支部
		14 安藤 一昭	武徳塾支部
		15 長野 宏治	士成会支部
		16 佐藤 亜里香	英明会支部

制定刀法 六段・七段の部(実技)

	出場選手名	所属団体名
	1 山口 博	宇都宮英信館支部
	2 関原 勝	埼玉支部
	3 小林 克己	さいたま尚武館支部
	4 新藤 智之	さいたま尚武館支部
	5 柴田 輝久	英明会支部
	6 堀内 城夫	士成会支部

制定刀法 団体戦の部(実技)

	出場チーム名	先 鋒	中 堅	大 将
11	1 武相会支部	長谷川勇一郎	猪膝 武士	
	2 土成会支部B	中村 智	角井 翔太	石川 純一
	3 英明会支部A	増田 幸弘	稲垣 達哉	佐藤亜里香
	4 埼玉支部	柏俣 和夫	水村 光治	岩崎 進
	5 さいたま尚武館支部	城和 広貴	伊藤 勉	
	6 武徳塾支部A	藤田 良治	安藤 一昭	長野 喬
	7 土成会支部A	庄司 一憲	山下 秀造	長野 宏治
	8 埼玉武蔵会支部	三上 鉄男	杉田 秀幸	
	9 八千代支部	宮元 鉄郎	岩澤 和也	藤原 弘通
	10 英明会支部B	榎 正乃	小倉 健雄	市角 壮玄
	11 武徳塾支部B	藤川 正智	福本 俊治	加藤 康友
	12 東京英信会支部	藤田 僚	成田 英右	大塚 晋二

大 会 記 録

記録：広報部

	段別試合種目	優 勝	準 優 勝	三 位		
第十八回全国大会 平成21年 10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	木村智行(英信館)	塩田孝輔(春風館)	山川 正(山形)・木村仁勇(英信館)	
		2・3段	鈴木孝行(坂東)	岩崎 進(武山会)	長谷川眞次郎(静岡)・戸田章文(武山会)	
		4・5段	中島 始(興心会)	境 泰雅(土佐拔刀道)	松浦健城(千葉)・成島正雄(坂東)	
	制定刀法・実技・個人戦	初段以下	塩田孝輔(春風館)	大野育子(川崎)	成田英右(英信会)・小林勇起雄(川崎)	
		2・3段	井上康司(志操館)	鈴木孝行(坂東)	上野浩一郎(尚武館)・近藤昭一(英信館)	
		4・5段	成島正雄(坂東)	藤本佳嗣(讃岐拔刀道)	佐藤亜里香(川崎)・中島始(秩父興心会)	
	制定刀法・団体戦	先 鋒	手塚祐貴	長谷川眞次郎	鈴木 舞 川上恵美子	
		中 堅	野村 憲	原田武虎	大野育子 金久保壽雄	
		大 将	近藤 昭一	小野智司	小林勇起雄 成島正雄	
		支部名	英信館 A	静岡 B	川崎 C 坂東 A	
	第十九回全国大会 平成22年 10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	山上天世(春風館)	大谷康裕(讃岐拔刀)	大野育子(川崎)・佐藤重政(静岡)
			2・3段	日下部幸子(坂東)	小林克己(尚武館)	原田武虎(静岡)・ウプル・スナンダ(春風館)
4・5段			高遠秋彦(静岡)	佐藤亜里香(川崎)	松浦健城(千葉)・藤田久男(剣誠会)	
制定刀法・実技・個人戦		初段以下	関 恒義(鎌倉)	大野育子(川崎)	大谷康裕(讃岐拔刀)・本山栄一(川崎)	
		2・3段	小野智司(静岡)	塩田考輔(春風館)	成田英右(英信会)・金子健太郎(葵心会)	
		4・5段	増田幸弘(川崎)	逆井 隆(坂東)	佐藤亜里香(川崎)・金久保壽雄(坂東)	
制定刀法・団体戦		先 鋒	手塚祐貴	江田 豊	成田英右 大野育子	
		中 堅	室井宏徳	日下部幸子	太田敏夫 佐藤亜里香	
		大 将	近藤昭一	逆井 隆	岡本光正 増田幸弘	
		支部名	英信館支部A	坂東支部A	英信会 川崎	

大 会 記 録

記録：広報部

		段別試合種目	優 勝	準 優 勝	三 位	
第二十回全国大会 平成23年10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	山上天世(春風館)	望月 透(静岡)	島田義和(坂東)・辻井香理(忠勇会)	
		2・3段	ウプルスナンダ(春風館)	細川 隆(高知)	戸田章文(武山会)・江田 豊(坂東)	
		4・5段	藤田久男(剣誠会)	富田憲介(尚武館)	岡本光正(英信会)・中島始(興心会)	
	制定刀法・実技・個人戦	初段以下	進藤恭平(高知)	島田義和(坂東)	木村さおり(坂東)・辻井香理(忠勇会)	
		2・3段	ウプルスナンダ(春風館)	小林克己(尚武館)	成田英右(英信会)・新藤智之(尚武館)	
		4・5段	境 泰雅(高知)	富田憲介(尚武館)	岡本光正(英信会)・山上武志(春風館)	
	制定刀法・団体戦	先 鋒	大野育子	木村さおり	高橋道夫 託摩哲朗	
		中 堅	佐藤亜里香	島田義和	板橋宜孝 小林勇起	
		大 将	増田幸弘	金久保寿雄	山本栄一 佐藤敬子	
		支部名	英信館Bチーム	板東支部Aチーム	川崎支部A 川崎支部B	
	第二十一回全国大会 平成24年10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	山上天正(春風館)	下河邊 朗(葵心会)	富川仁(春風館)・高松泰司(静岡)
			2・3段	北郷大輔(剣誠会)	三宅康司(讃岐)	藤田美香(英信館)・成田英右(英信会)
4・5段			境 泰雅(高知)	古田 忍(讃岐)	濱田定昭(高知)・パロピ マオリッチョ(イタリア)	
制定刀法・実技・個人戦		初段以下	城和広貴(尚武館)	高松泰司(静岡)	吉原安夫(島根)・富川仁(春風館)	
		2・3段	治部 昭(武蔵会)	横山慎平(鎌倉)	北郷大輔(剣誠会)・ウプルスナンダ(春風館)	
		4・5段	井上康司(志操館)	古田 忍(讃岐)	木村義人(武山会)・関恒義(鎌倉)	
制定刀法・団体戦		先 鋒	託摩哲郎	本多 浩	廣川憲司 山田泰輝	
		中 堅	佐藤敬子	横山慎平	日高健治 高木英豪	
		大 将	小林勇起雄	関 恒義	長畑卓治 野中源克斎	
		支部名	川崎支部Bチーム	鎌倉支部Aチーム	大阪支部A 飛燕会	

大 会 記 録

記録：広報部

		段別試合種目	優 勝	準 優 勝	三 位	
第二十二回全国大会 平成25年10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	岡本秀之(東京英信会)	宮本光三(英信館)	岩澤和也(八千代)・井本健(讃岐)	
		2・3段	ウプルスナンダ(春風館)	伏見由希(讃岐)	三宅康司(讃岐)・橋本瑠弥(高知)	
		4・5段	富田憲介(尚武館)	境 泰雅(高知)	ベンジャミン・ジョーダン(葵心会)・濱田定昭(高知)	
	制定刀法・実技・個人戦	初段以下	田村 悟(川崎)	長谷川雄祐(千葉)	井本健(讃岐)・高橋すみれ(忠勇会)	
		2・3段	ウプルスナンダ(春風館)	阿部夏美(川崎)	工藤孝裕(忠勇会)・軽部慎也(山形)	
		4・5段	松浦健城(忠勇会)	細川 隆(高知)	富田憲介(尚武館)・佐藤敬子(川崎)	
	制定刀法・団体戦	先 鋒	今村文彦	小林克己	伏見由希 田丸詩織	
		中 堅	細川 隆	新藤智之	井本 健 藤田美香	
		大 将	境 泰雅	上野浩一郎	三宅康司	
		支部名	高知支部 A	尚武館	讃岐拔刀道 英信館 B	
	第二十三回全国大会 平成26年10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	北村淑美(忠勇会)	宮本光三(英信館)	岡本秀之(東京英信会)・小國英智(葵心会)
			2・3段	辻井香理(忠勇会)	富川 仁(川崎)	高橋 忍(仙台)・城和 広貴(尚武館)
4・5段			譜久原朝彰(沖縄)	小林克己(尚武館)	井上康司(心武会)・今村文彦(高知)	
制定刀法・実技・個人戦		初段以下	植山孝明(埼玉武蔵会)	関田安明(忠勇会)	長野宏治(土成会)・斎藤亮一(鎌倉)	
		2・3段	三宅康司(讃岐)	下河邊朗(葵心会)	伏見由希(讃岐)・本多 浩(鎌倉)	
		4・5段	柴田輝久(千葉)	加地正司(千葉)	ベンジャミン・ジョーダン(葵心会)・細川 隆(高知)	
制定刀法・団体戦		先 鋒	伏見由希	宮田靖彦	大阪支部 鎌倉支部 B	
		中 堅	古田 忍	徳廣真継	廣川 憲司 斎藤 亮一	
		大 将	三宅康司	松田一男	日高 健治 井口 直樹	
		支部名	讃岐支部 A	高知支部 B	長畑 卓治 小林 昭夫	

大 会 記 録

記録：広報部

		段別試合種目	優 勝	準優勝	三 位		
第二十四回全国大会 平成27年10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	鈴木 久慶 (高知支部)	小松 英正 (高知支部)	戸田 大賀(高知支部) 渡部 武夫(英信館支部)		
		2・3段	阿部 夏美 (川崎支部)	吉原 安夫 (島根拔刀道支部)	鈴木 勝政(水戸葵心会支部) 富川 仁(川崎支部)		
		4・5段	廣川 憲司 (大阪支部)	本山 栄一 (川崎支部)	関原 勝(埼玉支部) 井林 幹明(仙台支部)		
	制定刀法・実技・個人戦	初段以下	戸田 大賀 (高知支部)	小松 英正 (高知支部)	中川佳奈子(忠勇会支部) 廖 一鴻(台湾支部)		
		2・3段	伏見 由希 (讃岐拔刀道支部)	富川 仁 (川崎支部)	吉原 安夫(島根拔刀道支部) 阿部 夏美(川崎支部)		
		4・5段	本山 栄一 (川崎支部)	小林 克己 (尚武館支部)	井林 幹明(仙台支部) 浦井 一彦(笠間洗心館支部)		
	制定刀法・団体戦	先 鋒	鈴木 久慶	平岡 美代	軽部 慎也	功刀 一好	
		中 堅	濱田 定昭	稲田 雄輔	黒田 了光	高橋 道夫	
		大 将	細川 隆	大谷 康裕	新関 勇樹	本山 栄一	
		支部名	高知支部 A	讃岐拔刀道B	山形支部	川崎支部 B	
	第二十五回全国大会 平成28年10月	制定刀法・形・個人戦	初段以下	庄司 一憲 (土成会支部)	功刀 一好 <small>※功は「工に刀」</small> (川崎支部)	森本 誠(高知支部) 栗原 実(川崎支部)	
			2・3段	内田 尚仁 (讃岐拔刀支支部)	城和 広貴 (尚武館支部)	伏見 由希(讃岐拔刀道支部) 田村 悟(川崎支部)	
4・5段			譜久原 朝彰 (沖縄支部)	日高 健二 (大阪支部)	猪膝 武士(埼玉武蔵会支部) 長谷川 徹(八千代支部)		
制定刀法・実技・個人戦		初段以下	JOLANTA GOLEC (剣誠会支部)	佐々木 伸 (山形支部)	宇塚 拓人(尚武館支部) 森本 誠(高知支部)		
		2・3段	富川 仁 (川崎支部)	田村 悟 (川崎支部)	小林 勇起男(川崎支部) 板橋 宣孝(川崎支部)		
		4・5段	平岡 美代 (讃岐拔刀道支部)	藤田 僚 (東京英信会支部)	三宅 康司(讃岐拔刀道支部) 軽部 慎也(山形支部)		
制定刀法・団体戦		先 鋒	高橋 道夫	松田 一男	佐々木 伸	平岡 美代	
		中 堅	富川 仁	濱田 定昭	黒田 了光	長野 喬	
		大 将	田村 悟	徳廣 真継	軽部 慎也	内田 尚仁	
		支部名	川崎支部A	高知支部A	山形支部	讃岐拔刀道支部B	
		殊勲賞 文部科学大臣	譜久原 朝彰(沖縄支部)				
		中村杯	平岡 美代(讃岐拔刀道支部)				
		中倉旗	高橋 道夫、富川 仁、田村 悟(川崎支部A)				

大会 記 録

記録：広報部

		優 勝	準優勝	三 位		
第二十六回全国大会 平成29年10月	制定刀法形個人戦	初段以下 佐々木 伸 (福山郡山支部)	高島 孟 (讃岐拔刀道支部)	木下 全雄 (鎌倉支部)	植村 宏司 (川崎支部)	
		2・3段 稲田 雄輔 (讃岐拔刀道支部)	鈴木 久慶 (高知拔刀道支部)	富川 仁 (川崎支部)	安田 靖彦 (高知拔刀道支部)	
		4・5段 長野 宏治 (土成会支部)	濱田 定昭 (高知拔刀道支部)	浦井 一彦 (笠岡洗心館支部)	塩原 斉 (川崎支部)	
	制定刀法実技個人戦	初段以下 庄司 一憲 (土成会支部)	森本 誠 (高知拔刀道支部)	佐々木 伸 (福山郡山支部)	植村 宏司 (川崎支部)	
		2・3段 刃刀 一好 (川崎支部)	小林勇起雄 (川崎支部)	鈴木 久慶 (高知拔刀道支部)	田村 悟 (川崎支部)	
		4・5段 三宅 康司 (讃岐拔刀道支部)	平岡 美代 (讃岐拔刀道支部)	廣川 憲司 (大阪支部)	柴田 輝久 (東京道場)	
		6・7段 古田 忍 (讃岐拔刀道支部)	境 泰雅 (高知拔刀道支部)	藤本 佳嗣 (讃岐拔刀道支部)	関原 勝 (埼玉支部)	
	制定刀法団体戦	先 鋒	庄司 一憲	森本 誠	遠藤 正幸	平岡 美代
		中 堅	長野 宏治	鈴木 久慶	稲田 雄輔	三宅 康司
		大 将	山下 秀造	濱田 定昭	高島 孟	内田 尚仁
		支部名	土成会支部A	高知拔刀道支部B	讃岐拔刀道支部B	讃岐拔刀道支部A
		殊勲賞 文部科学大臣	長野 宏治(土成会支部)			
		中村杯	三宅 康司(讃岐拔刀道支部)			
		中倉旗	庄司一憲、長野宏治、山下秀造(土成会支部A)			
	大会会長賞	古田 忍(讃岐拔刀道支部)				
優 勝 準優勝 三 位						
第二十七回全国大会 平成30年10月	制定刀法形個人戦	初段以下 高島 孟 (讃岐拔刀道支部)	竹田 祐希 (土成会支部)	片山 和富 (讃岐拔刀道支部)	石川 純一 (土成会支部)	
		2・3段 宮田 靖彦 (高知支部)	稲田 雄輔 (讃岐拔刀道支部)	佐々木 伸 (福山郡山支部)	JOLANTA GOLEC (剣誠会支部)	
		4・5段 三宅 康司 (讃岐拔刀道支部)	新藤 智之 (さいたま尚武館支部)	小林 克己 (さいたま尚武館支部)	長野 宏治 (土成会支部)	
	制定刀法実技個人戦	初段以下 曾 章原 (台湾支部)	竹田 祐希 (土成会支部)	藤川 正智 (武徳塾支部)	鶴澤 佳史 (東京英信会支部)	
		2・3段 小林勇起雄 (川崎支部)	庄司 一憲 (土成会支部)	田村 悟 (川崎支部)	植村 宏司 (川崎支部)	
		4・5段 猪膝 武士 (武相会支部)	三宅 康司 (讃岐拔刀道支部)	長野 宏治 (土成会支部)	塩原 斉 (川崎支部)	
		6・7段 平川 政博 (埼玉武蔵会支部)	古田 忍 (讃岐拔刀道支部)	平岡 茂範 (讃岐拔刀道支部)	境 泰雅 (高知支部)	
	制定刀法団体戦	先 鋒	伊藤 勉	刃刀 一好	片山 和富	周 懷恩
		中 堅	小林 克己	高橋 道夫	内田 尚仁	陳 倬晟
		大 将	新藤 智之	田村 悟	三宅 康司	呉 明典
		支部名	さいたま尚武館支部	川崎支部B	讃岐拔刀道支部B	台湾支部C
		殊勲賞 文部科学大臣	三宅 康司(讃岐拔刀道支部)			
		中村杯	猪膝 武士(武相会支部)			
		中倉旗	伊藤勉、小林克己、新藤智之(さいたま尚武館支部)			
	大会会長賞	平川政博(埼玉武蔵会支部)				

	
商標登録証 (CERTIFICATE OF TRADEMARK REGISTRATION)	
登録第6507098号 (REGISTRATION NUMBER)	
商標 (THE MARK)	
 制定刀法 	
指定商品又は指定役務並びに商品及び役務の区分 (LIST OF GOODS AND SERVICES)	
第 9 類	抜刀の一本目から十本目の実技に関する音楽・音声・ 画像・映像・文字情報・電子出版物を記憶させた電子 その他別紙記載
商標権者 (OWNER OF THE TRADEMARK RIGHT)	東京都墨田区両国2丁目21番5号 一般財団法人日本抜刀道連盟
出願番号 (APPLICATION NUMBER)	商願2020-111882
出願日 (FILING DATE)	令和 2年 9月 9日 (September 9, 2020)
登録日 (REGISTRATION DATE)	令和 4年 2月 1日 (February 1, 2022)
この商標は、登録するものと確定し、商標原簿に登録されたことを証する。 (THIS IS TO CERTIFY THAT THE TRADEMARK IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)	
令和 4年 2月 1日 (February 1, 2022)	
特許庁長官 (COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)	
	森

…著作権…



制定刀法は、唯一無二の刀法であると共に当財団連盟の登録商標で、許可なくして使用することを固く禁ずるものであります。商標登録第 6507098 号

一般財団法人 日本抜刀道連盟

この日本刀は、都道府県教育委員会に登録しております。抜刀道の稽古、試合等に使用するために、この日本刀をケースに納め、銃砲刀剣類登録証（原本）と共に携行することは、「正当な理由があるもの」として、銃砲刀剣類所持等取締法その他関係法令で認められております。

一般財団法人日本抜刀道連盟

一般財団法人
日本抜刀道連盟



第三十一回 全国大会

